

平成28年度 協働による環境学習推進事業(岡山県)

第4回 おかやま環境教育ミーティング

～つながる ひろがる めばえる 環境教育の輪～

報告書

おかやま環境教育ミーティング実行委員会



第4回おかやま環境教育ミーティング ～つながるひろがるめばえる環境教育の輪～

- 日 時：平成28年8月17日（水） 10:00～17:00
- 会 場：岡山コンベンションセンター 1F イベントホール
- 参加者：158名（一般参加者136名、実行委員・スタッフ22名）
- ブース出展：40団体
- コーディネーター：志賀 誠治 氏（人間科学研究所 所長）
- 基調講演：飯島 博 氏（認定NPO法人アサザ基金 代表理事）

今回のおかやま環境教育ミーティングでは…

環境教育に関心のある学校、企業、行政、NPOや環境団体等の方々が集い、
お互いの活動、実践事例紹介や参加して交流するスタイルのミーティングを通して、
環境教育に関わる人たちがこれまで出会っていなかった人・団体と知り合い、つながり、
協働による環境教育の輪を広げるきっかけの場を作りました。





目次

< 内容 >

コーディネーター 志賀 誠治氏

スケジュール

10：00 開会挨拶	3	
おかやま環境教育ミーティング実行委員会 委員長 湯場 俊一		
10：05 オリエンテーション	かんきょうひろば事務局	
10：15 基調講演	4	
「社会を変える価値創造型の環境学習～霞ヶ浦アサザプロジェクト～」		
認定NPO法人アサザ基金 代表理事 飯島 博 氏		
11：25 知り合う時間	6	
人間科学研究所 所長 志賀 誠治 氏		
12：45 昼休み（協働ミーティングのチーム参加表明）		
13：15 おかやまエコスクール表彰式	7	
13：25 ブース展示（活動紹介・学習プログラムの紹介・体験）	7	
14：45 協働ミーティング①	グループの進め方・内容の説明	9
14：50 協働ミーティング②	グループ別ワークショップ	9
16：05 協働ミーティング③	発表会・全体共有・投票	10
コーディネーター：人間科学研究所 所長 志賀 誠治 氏		
16：30 全体ふりかえり・わかちあい	18	
16：50 閉会挨拶	18	
岡山県環境文化部 新エネルギー・温暖化対策室 室長 片山 圭子		
<アンケート結果>	19	
<スケジュール & 実施プロセス>	26	



内容

10:00 開会挨拶 おかやま環境教育ミーティング実行委員会 委員長 湯場 俊一

- ・今回で4回目を迎えるミーティング。
- ・環境教育をテーマに学校・企業・行政・NPO・環境団体等の協働のための出会いの場を提供。
- ・昨年のミーティングをきっかけに実際に動き出しているテーマもある。
- ・昨年のテーマは「つながる ひろがる 環境教育の輪」。今年はさらに発展するため、
テーマを「つながる ひろがる めばえる 環境教育の輪」とした。
- ・同じ志をもった仲間を探してもらいたい。
- ・新たな環境学習の芽が芽生えることを期待する。
- ・実際の教育現場で活躍されている学校の先生にも多く参加していただいている。
- ・環境学習は子供の頃から継続して行って行くことが大切。
- ・私がこの場に立っているのも、小学生で受けた環境学習体験が大きく影響している。
- ・本日のこのイベントを通して、つながりがさらに広がっていくものと確信している。
- ・今日1日、「つながる ひろがる めばえる」を意識していただきて、楽しく参加していただければと思う。
- ・どうぞ1日宜しくお願いします。

10:05 オリエンテーション かんきょうひろばの説明 事務局

- ・環境学習に関する交流・情報共有、出前講座、指導者養成、企画提案等を行っている。
- ・出前講座は年々依頼数が増加しているため、指導者の養成も行っている。
- ・多くの依頼にこたえるため、多くの方に指導者になってもらいたい。
- ・効果的な環境教育を推進するために、協働していきましょう。
- ・「つながる ひろがる めばえる 環境の輪」を広げるきっかけづくりを楽しんでもらいたい。





10：15 基調講演

「社会を変える価値創造型の環境学習 ～霞ヶ浦アサザプロジェクト～」 認定 NPO 法人アサザ基金 代表理事 飯島 博 氏



<朋あり遠方より来る、また楽しからずや（孔子「論語」）>

- ・様々な立場の方が集まって協働のきっかけを作るこのミーティングにぴったりの言葉。
- ・遠方とは遠くだけでなく、自分とは違う分野や関係ないと思っていたところ。
 そんな新しい世界と交流することで、新しい発想が生まれて楽しいと解釈できる。
- ・つまり、自分の在り方を変えることで、分野の境界（壁）を越えて朋が現れ、
 新しい世界が見られるようになり、潜在的なものが浮上する＝イノベーションの極意だ。
- ・例えば CSR→企業の分野を超えて新たなビジネスパートナー（朋）が現れ新たな市場を獲得できる。

<イノベーションを生み出すには>

- ・霞ヶ浦は水質汚濁ワースト1。現代の社会システム全体が水を汚している。
- ・社会システムを変えるには、自己完結しない事業が必要。繋がっていないものを繋げ、
 付加価値の連鎖を生み出し、新しい人・もの・金の動きをつくり、環境保全と地域の活性化を一体化
 させる。子どもと一緒にとりくむ環境学習はこの事業の原動力。
- ・動く線：多角的に物事を見ることで、点から線へ。動きの中で考え、価値を生み出す姿勢が重要。
- ・多様な事業で流域を覆い、動的ネットワークを創出。本業に取り入れれば労力はいらない。
- ・自然や環境は答えのない「問い合わせの連鎖」であり、そのなかでしっかりと物事をとらえて柔軟に対応し、
 ポジティブに新たな価値を創造する（価値創造型）
- ・現われる（浮上する）イメージを大切に。事業もまた「現われるもの」であり続ける必要があり、
 「在るもの（あたりまえ）」になった途端に停滞する。
- ・縦割りの発想ではなく、中心に NPO 等がプラットフォームを作り、そこに行政、大学、研究機関等様々な
 ステークホルダーが参加して出会いの場を作り、事業を起こしていくという発想が必要。

<環境学習が目指すもの>

- ・直感（イメージ）は大事なはずなのに、現代社会では重要視されていない。
 専門家に直感を概念に固定化されてしまい、動きを止められてしまう。
- ・可能なものからの選択に馴れすぎて、潜在的な可能性を引き出すことがなくなっている。
- ・環境教育の最終目標はイノベーションを起こすこと。イノベーションの鍵は、
 選択をしないで潜在的な可能性を浮上させること。
- ・答えの積み重ねだけで物事を見ると、与えられた可能性しか見ることができない。
 しかし、その外側に目を向ければ、問い合わせの連鎖があり、その中に自分が入って、
 新しい発見や価値を自らの方法で生み出すことが重要（価値創造型の学習）。
- ・本来、総合的な学習はこういう問題解決能力を持った子ども達を育てる目的があったはず。
- ・“問い合わせる”には、「答え」と「応え」がある。現代では「答え」が用意されていない問い合わせに出会った
 ときにうろたえ、安易な答えに従ってしまう。自分の方法で「応える」力を鍛えなければいけない。



<霞ヶ浦アサザプロジェクト>

- ・湖再生に閉塞感が漂ったとき、発想を変えるため湖周辺を自分で歩いてみた。大人は参加してくれなかつたが子供が参加してくれ地図に整理した。そこで出会ったのが絶滅の恐れのある水生植物のアサザ。
- 年々減少するアサザの里親制度を始めたが、これが多くの人に湖との絆を作るきっかけになった。
- ・自然保護政策を公的資金等で行うには限界がある。新しい価値を創造して広めていくしか方法はない。
- そこには新たな出会いが必要。行政だけ、企業だけでやってもダメ。
- 我々は8社の企業と協働をして水源地再生を広域的にやっている。
- ・新しい価値を広げていくためには、ものにそれがしっかりと根付いてなければならない。
- コンテンツブランドではなくコンテクストブランドを生み出す。
- このコンテクストブランドを生み出すのも環境学習の重要なテーマ。

<NPO=社会のホルモン>

- ・NPOは行政の補完ではなく、自分たちでネットワークを作り、行政をネットワークのなかで機能させて今まで以上に仕事をしてもらう場を作るのが仕事。
- ・離れた組織同士を結びつけるのもNPOの役割。今までつながるはずがない者同士を結びつけて新しい価値や機能を引き出していける新しい発想を持ったアクティビティに動ける小さな組織がいくつも社会にできてくれれば、それが「社会のホルモン」として機能する。
- ・縦割りの壁を溶かして膜に変える。壁を「破壊する」から「溶かす」への発想の転換。
- ・日本人は元々自然との親和性の高い「膜の文化」を持っている。
- ・人間は考える1本の葦である（西洋）→人間は考える葦原（ネットワーク）である（東洋）
- ・壁（立場）の中では何も語れない。環境問題は境界（膜）に立つ勇気が必要である。

<環境に取り組む=生きる力を育てる>

- ・その土地の良さを引き出す、新しい意味や価値を見つける、よき出会いの連鎖を生み出せる、それを戦略的に理論的にネットワークとして広めることができる、これを長い時間の中で実らせるための物語を生み出すことができる、つまりイノベーションを生み出すことができる人を育てたい。
- これが我々が環境教育を行っている一番の目的である。





11：25 知り合う時間

コーディネーター 志賀 誠治 氏（人間科学研究所 所長）



《参加者の交流》

①自己紹介

2人組になって、「これまでの活動や学んできたこと、興味があること、環境教育ミーティングに期待していること」を1人3分で自己紹介する。

②他己紹介

①の2人組×3ペアで6人組をつくり、聴き取った相手を他のメンバーに他己紹介（1人1分）する。

③基調講演の感想・質問

②の6人組から3人組になり、基調講演に関する感想を共有し、飯島氏への質問を話し合う（5分間）。



《講演の感想・質疑》

Q1

とても立派な取り組みだと思うと同時に、レベルが高すぎてついていけないところもあった。
もっとえげつない部分や困難な部分を教えていただくほうが、現実味があり、参考になることもある。
大きなお金が動くと想定外の動きもあり、既得権益とのぶつかり合いや圧力もある。

A1

アサザ基金の取り組みが参考モデルになって自然再生推進法ができるときは政治にもみくしゃにされて大変だった。
思いどおりにいかないことはたくさんあるが、一つ実験をしたということは成果であり学習できた。
次はもっとうまくやれる。また、他のNPOや住民との意見の食い違いや利害関係は当然あるので、
みんな介入していないが、アサザ基金は、あえてやっている。だから、他と競合することなく軌跡を避けている。

Q2

議員等既得権益を突破するヒントを教えてほしい。

A2

えげつなく利用するということはない。議員がやることは限られているので我々のほうがずっとできている。
自分たちが成果を上げたものに議員が制度化するなどの声をかけてきても相手にしないほうがいい。
自然再生推進法ができるが我々は使っていない。
依存したり頼ったりするととても動きにくい、フリーハンドの状態で取り組んでほしい。

Q3

岡山に休耕田が広がる理由は猪の被害があるからだが、霞ヶ浦に猪は出ないのか。

A3

筑波山の山麓には出て、それ以外は今のところ出でていないが、獣害は拡大傾向にはある。
獣害をテーマに環境学習をすることも重要。

Q4

子供を入れることはよいと思う。子供の意見を尊重してやっているのか、授業に合わせて導いているのか。

A4

逆に子供に導かれている。私は、一年間の大半を小学校の環境学習に費やしているが、子ども達に学ぶこと、
感性を得ること、子供たちに知性を開いてもらい新しい発想を得ることが多い。
大人と違って合意形成や多数決は必要ない。
なぜなら、共感力があるから。他の人の意見やアイデアに反応し、受け入れ、言葉を返せる。
それを繰り返すことで、よりレベルの高いひとつものにまとまっていく。

Q5

今日の講演ほど共感を多く覚えるものはない。
欧米的な仕組みである日本社会のなかでこれだけの多彩な事業を進められた秘訣は何か。

A5

遊びの感覚ではないか。楽しくワクワクしてやっている。失敗を恐れずやる。

12:45 昼休み（協働ミーティングのチーム参加表明）

昼休みの間に自分が参加したい協働ミーティングテーマに名前を書き、参加表明する。



13:15 おかやまエコスクール表彰式

かんきょうひろば運営委員会 委員長 田中康敬

浅口市立金光小学校（○）、美咲町立美咲中央小学校（○）、備前市立伊里小学校（○）、
津山市立弥生小学校 ※「○」：表彰式に出席



13:25 ブース展示（40団体が出展）

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1) エコネットワーク津山 | 21) 岡山県立矢掛高等学校 |
| 2) 千年の森つくりグループ | 22) わくわく親子ふれあい理科教室 |
| 3) 和桜会（哲多町花木中組青江年部） | 23) 津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザ |
| 4) 岡山県森林インストラクター会 | 24) 東京海上自動火災保険株式会社 |
| 5) みずしま財団（公益財団法人 水島地域環境再生財団） | 25) 電一郎先生（土井伸一郎） |
| 6) stop 温暖化倉敷実行委員会 | 26) 特定NPO法人おかやまエネルギーの未来を考える会 |
| 7) 中国EPO | 27) 岡山県シェアリングネイチャー協会 |
| 8) 四国EPO | 28) 自然体験リーダーズクラブ |
| 9) イオンリテール | 29) せとうち花俱楽部 |
| 10) 高梁川流域学校（一般社団法人水辺のユニオン） | 30) 倉敷総社温暖化対策協議会 |
| 11) 公益財団法人岡山市公園協会 操山公園里山センター | 31) おかやま環境教育ミーティング若手の会（かいわれの会） |
| 12) NPO・I C O I（国際協力研究所・岡山） | 32) 矢掛町地域おこし協力隊 |
| 13) あさくち（さとしょう）de eco る課！！ | 33) YKG60（やかけ小中高こども連合） |
| 14) アッパービレッジ有限会社 | 34) おかやまエコマインドネットワーク |
| 15) 一般社団法人 環境報告研 | 35) 子ども防災ネットワークおかやま |
| 16) 岡山理科大学 自然を学ぶ会 | 36) 環境学習センター「アスエコ」 |
| 17) 岡山県立水島工業高等学校 | 37) 岡山ESD推進協議会・岡山市 |
| 18) 岡山県立笠岡工業高等学校 | 38) エコロジー東備（えことび） |
| 19) 西粟倉教育委員会 | 39) 明和製紙原料株式会社 |
| 20) 岡山市立京山中学校 | 40) サンキョウ - エンビックス(株) |

ブース展示

それぞれの団体の活動や学習プログラムを紹介しました。





14：45 協働ミーティング：グループの進め方・内容の説明

協働ミーティングテーマ一覧

- 1 どの学校でも取り組める エコ授業の詰め合わせパック 総合出前講座 エコフェスティバル
- 2 くらしきエコプレーヤーマップづくり
- 3 環境学習出前講座「タウンウォッチングでエコの目を育てる」
- 4 豊かな里の森、元気な子どもつくり
- 5 センスオブワンダーを育むために
- 6 安心安全な食と農
- 7 ～地域の自立のための実施プログラムづくり～ローカル・アジェンダ（地域の具体的・総合的行動計画）
- 8 温暖化と大気汚染の同時対策
- 9 心の環境教育
- 10 障がいのある親子・障がいのない親子が自然の中で楽しめる交流会
- 11 出前講座の新たなプログラム作り：「昔の暮らしの知恵と工夫」
- 12 環境分野の若手と環境団体が縦の連携を作るためのイベント企画『若手版 おかやま環境教育ミーティング(仮)の開催』



14：50 協働ミーティング：グループ別ワークショップ

- ・参加表明したテーマごとに参加者がわかれ、ワークショップ形式による検討を行った。
- ・テーマに対する①問題意識（背景）、②期待できる効果、③大きな活動イメージ、
④誰と協働するかを模造紙にまとめる。





16:05 協働ミーティング：発表会・全体共有・投票

- 他のテーマを見てみよう（どんなテーマの話を聞きたいかを考える）（自由に10分）。
- 他のテーマを聞いてみよう（テーマ提案者から発表を聞く）（7分×3テーマ）。
- 最後にいいと思ったテーマ2つに投票（シール）し、上位6グループを発表。

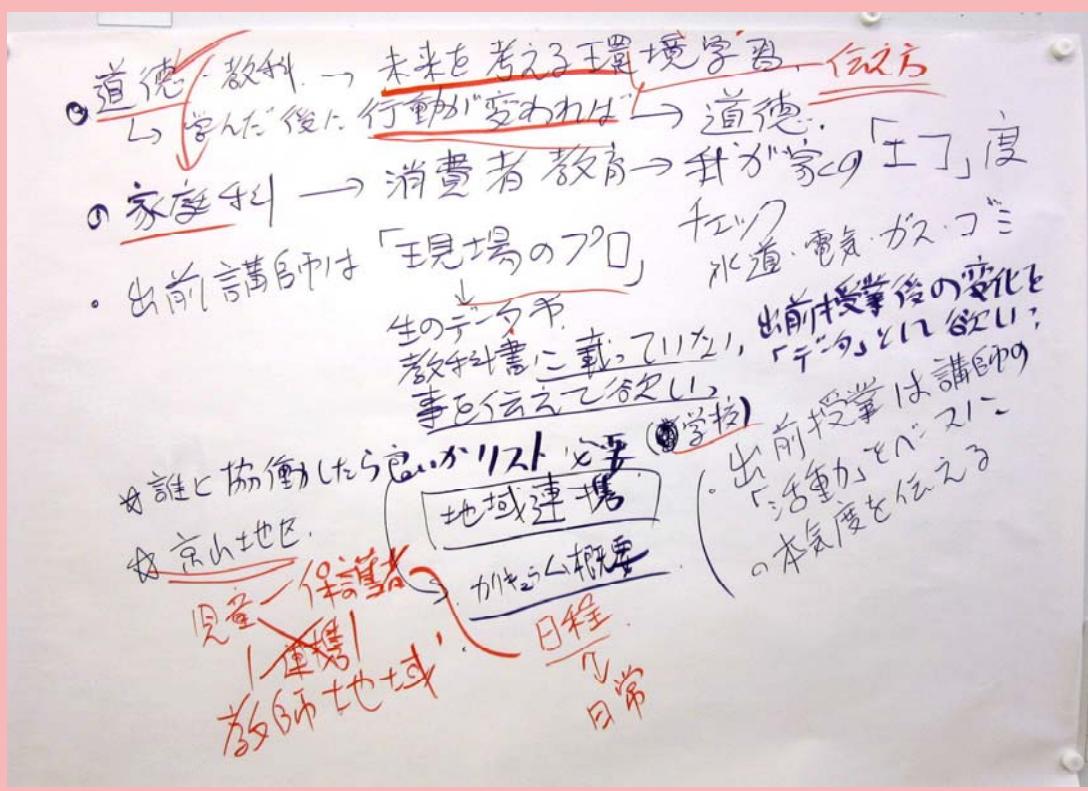
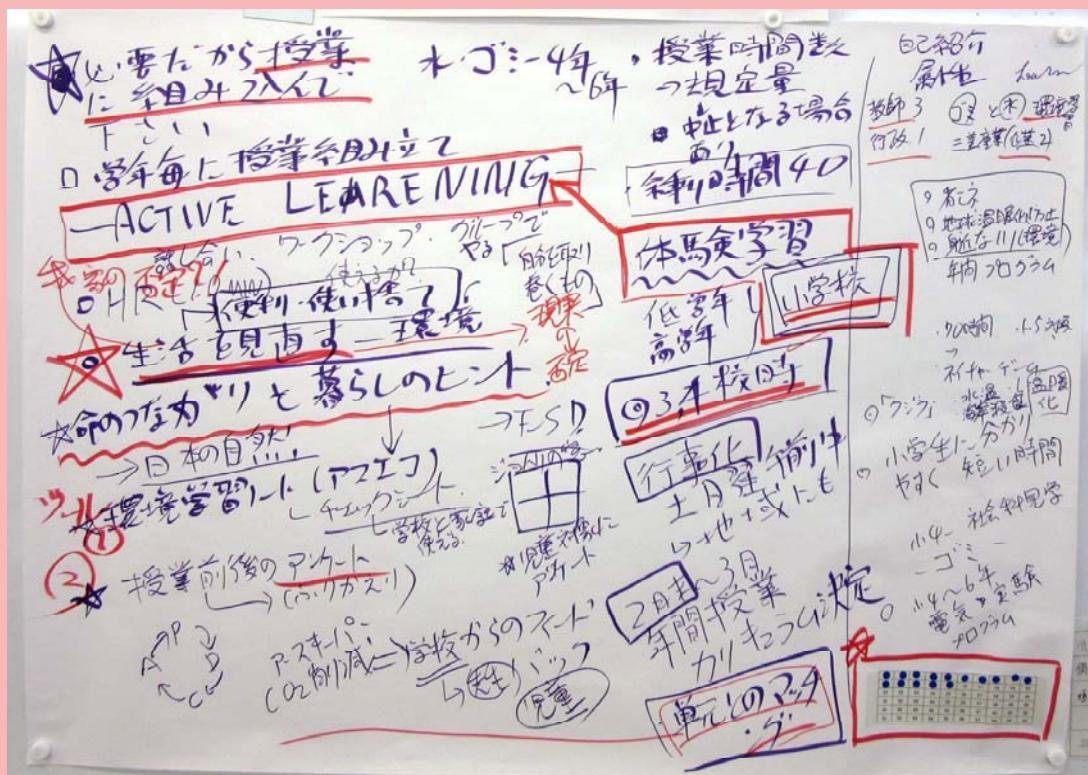
評価の高かった上位6つの提案テーマと投票数

提案テーマ	投票数
1 障がいのある親子・障がいのない親子が自然の中で楽しめる交流会	29
2 環境分野の若手と環境団体が縦の連携を作るためのイベント企画 『若手版 おかやま環境教育ミーティング（仮）の開催』	24
3 環境学習出前講座「タウンウォッチングでエコの目を育てる」	22
4 センスオブワンダーを育むために	21
4 安心安全な食と農	21
5 心の環境教育	20

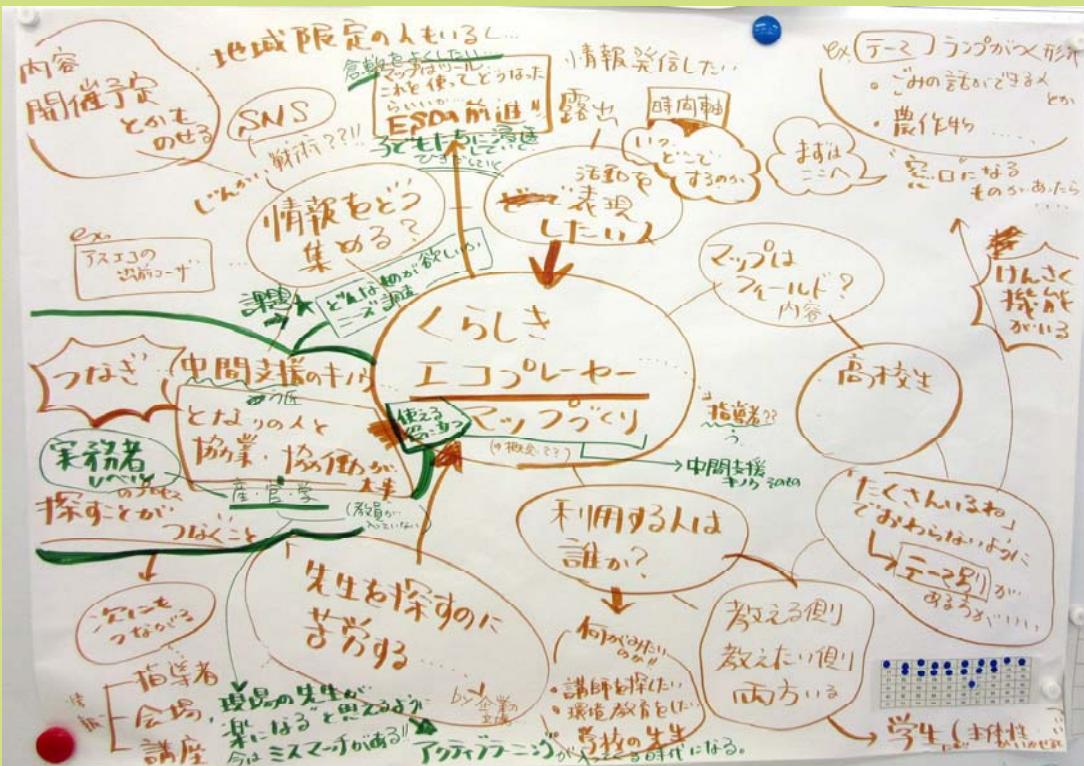


各グループの話し合い

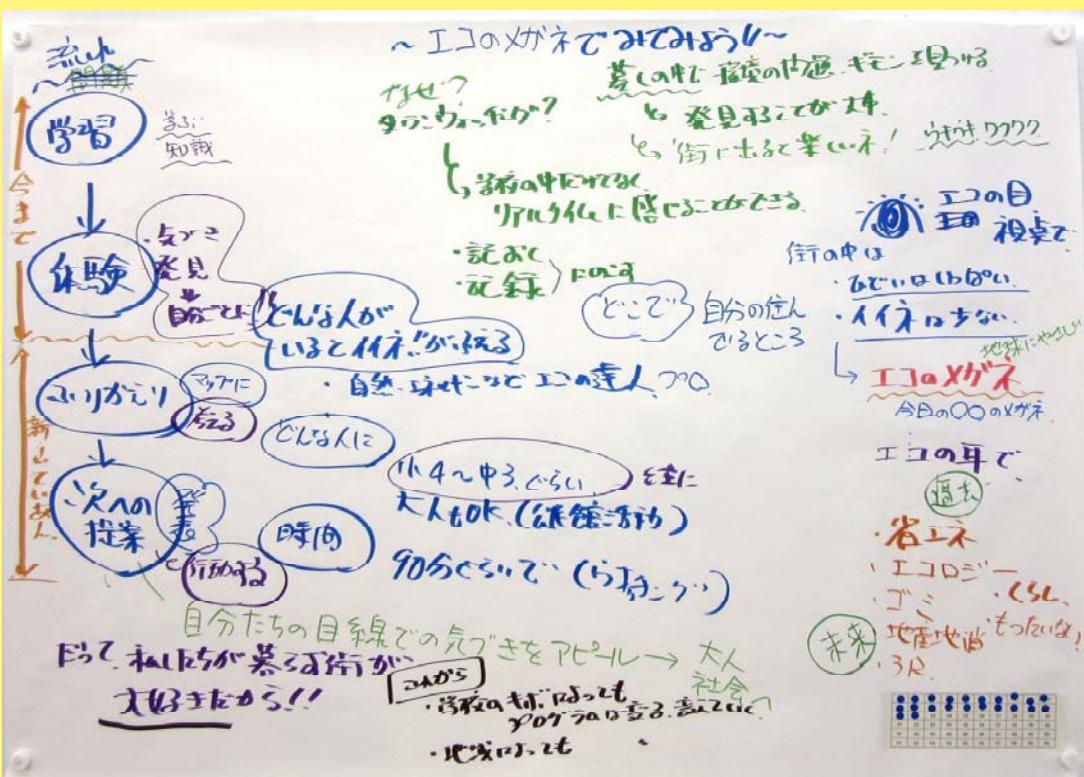
1) どの学校でも取り組める エコ授業の詰め合わせパック
総合出前講座 エコフェスティバル



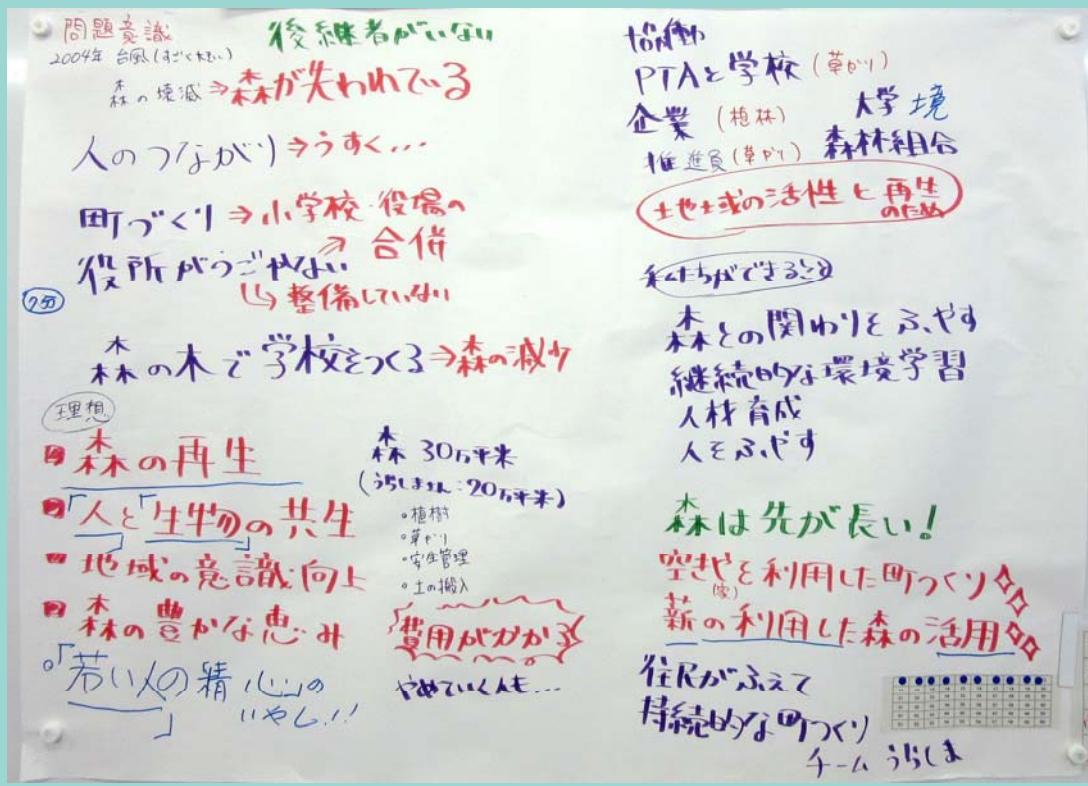
2) くらしきエコプレーヤーマップづくり



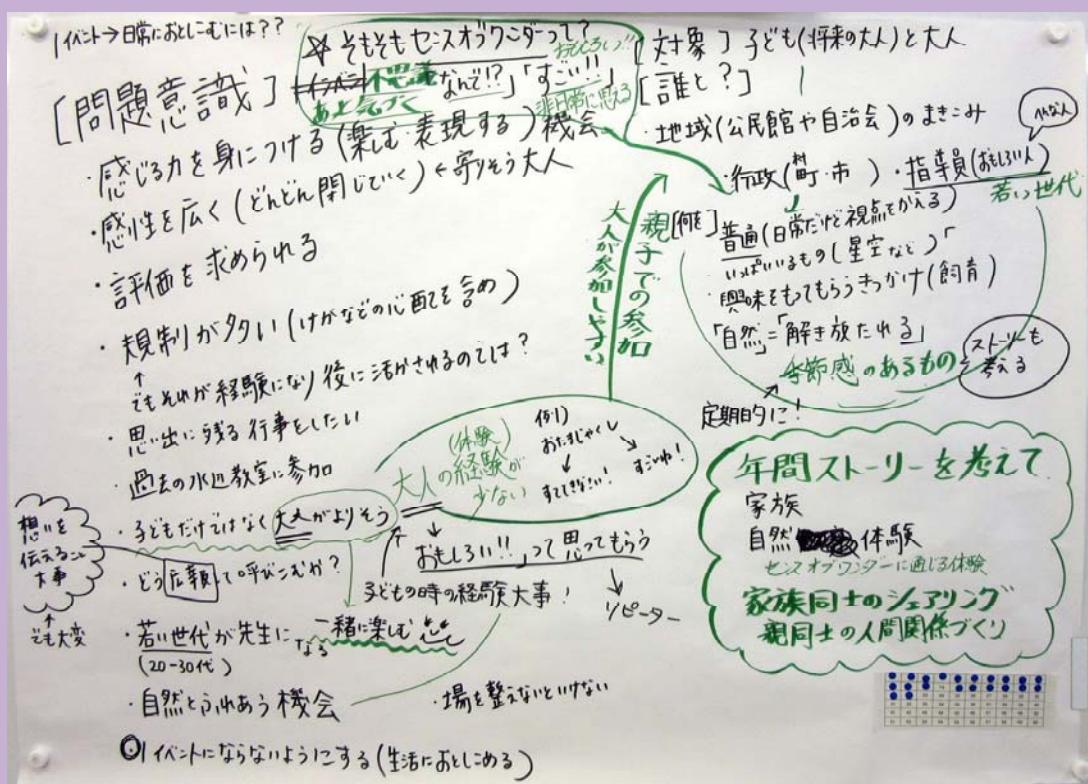
3) 環境学習出前講座「タウンウォッキングでエコの目を育てる」



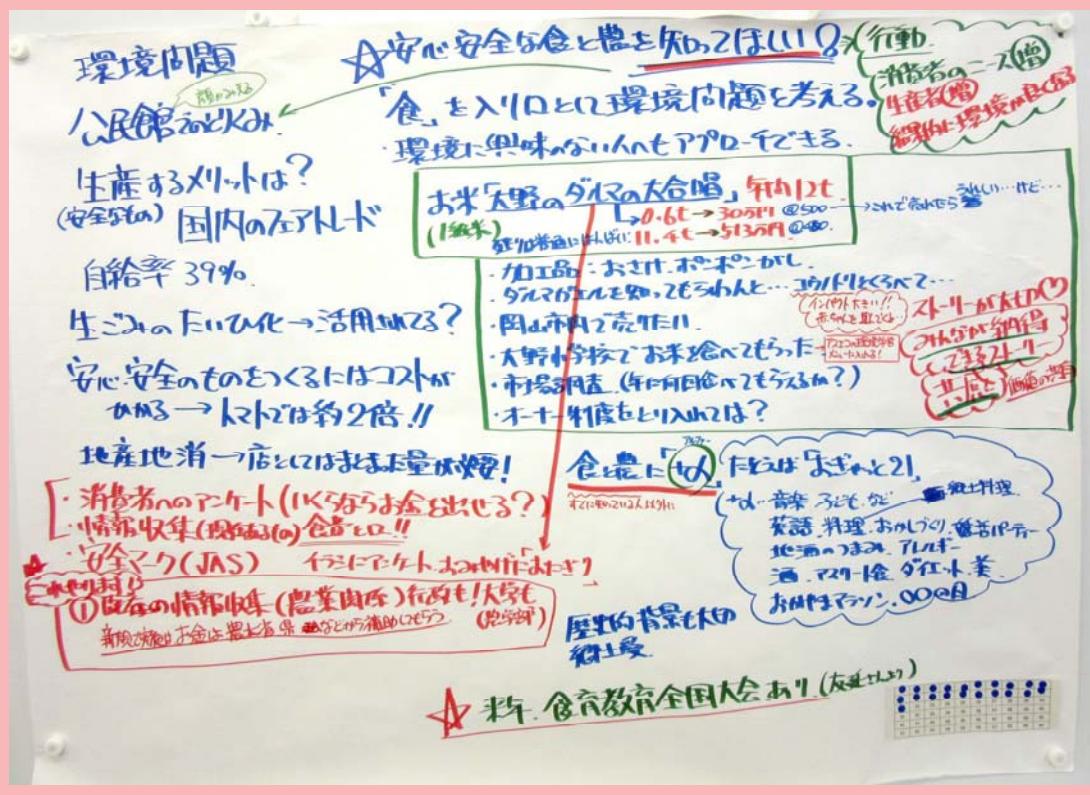
4) 豊かな里の森、元気な子どもつくり



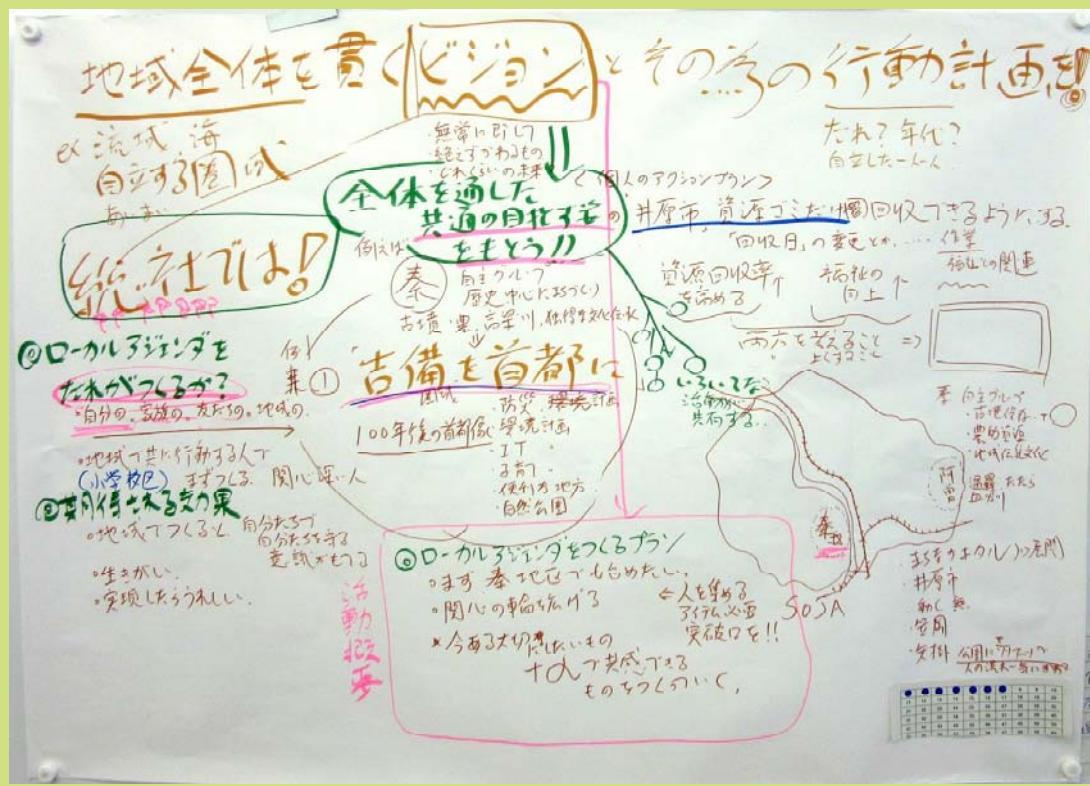
5) センスオブワンダーを育むために



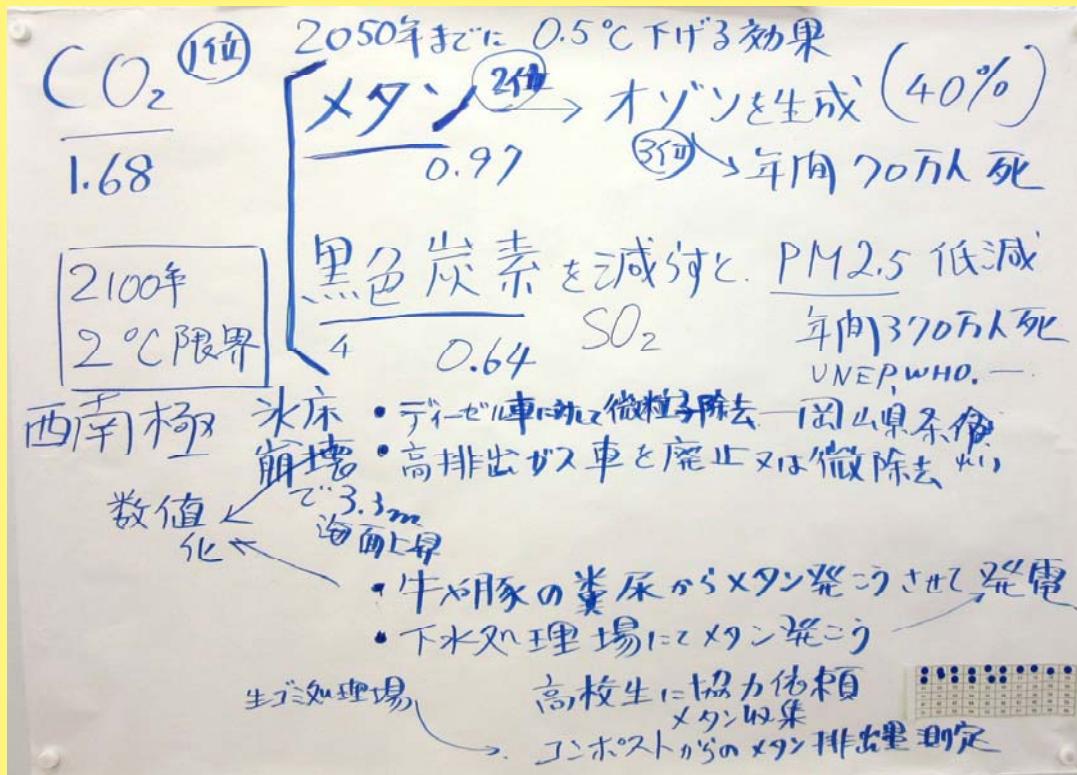
6) 安心安全な食と農



7) ~地域の自立のための実施プログラムづくり~ ローカル・アジェンダ (地域の具体的・総合的行動計画)



8) 温暖化と大気汚染の同時対策



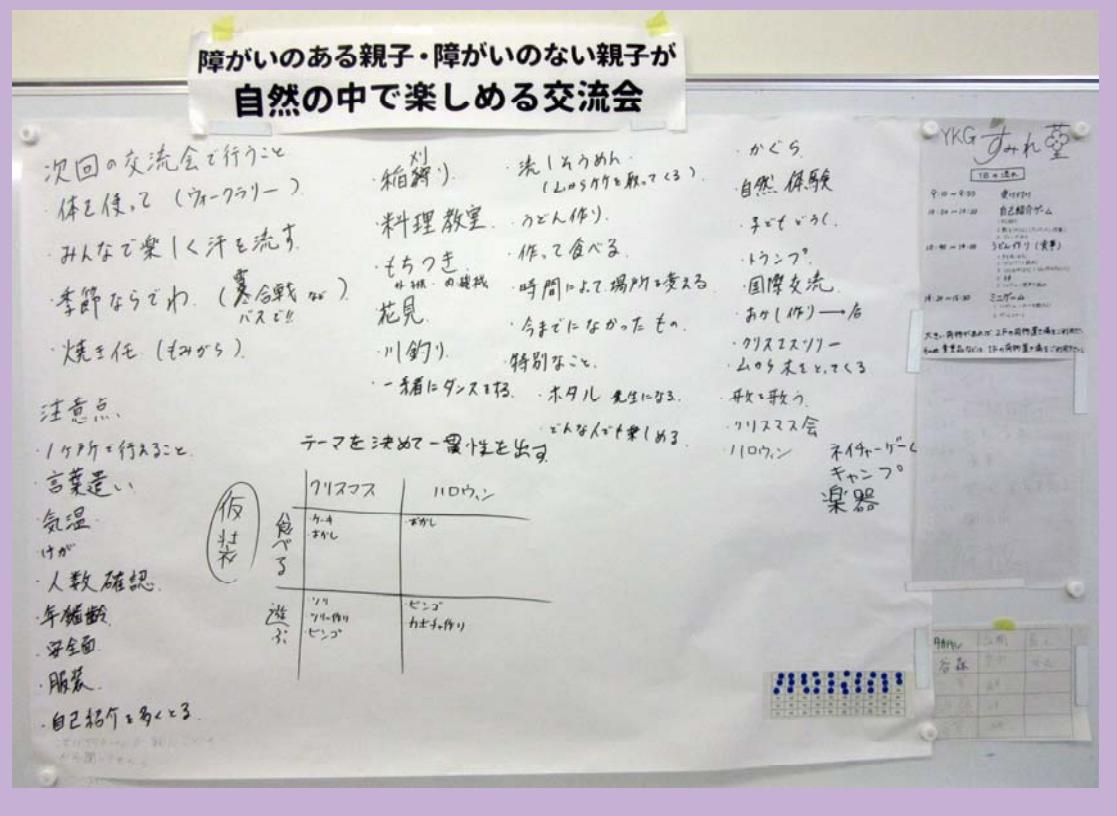
9) 心の環境教育

心の環境教育

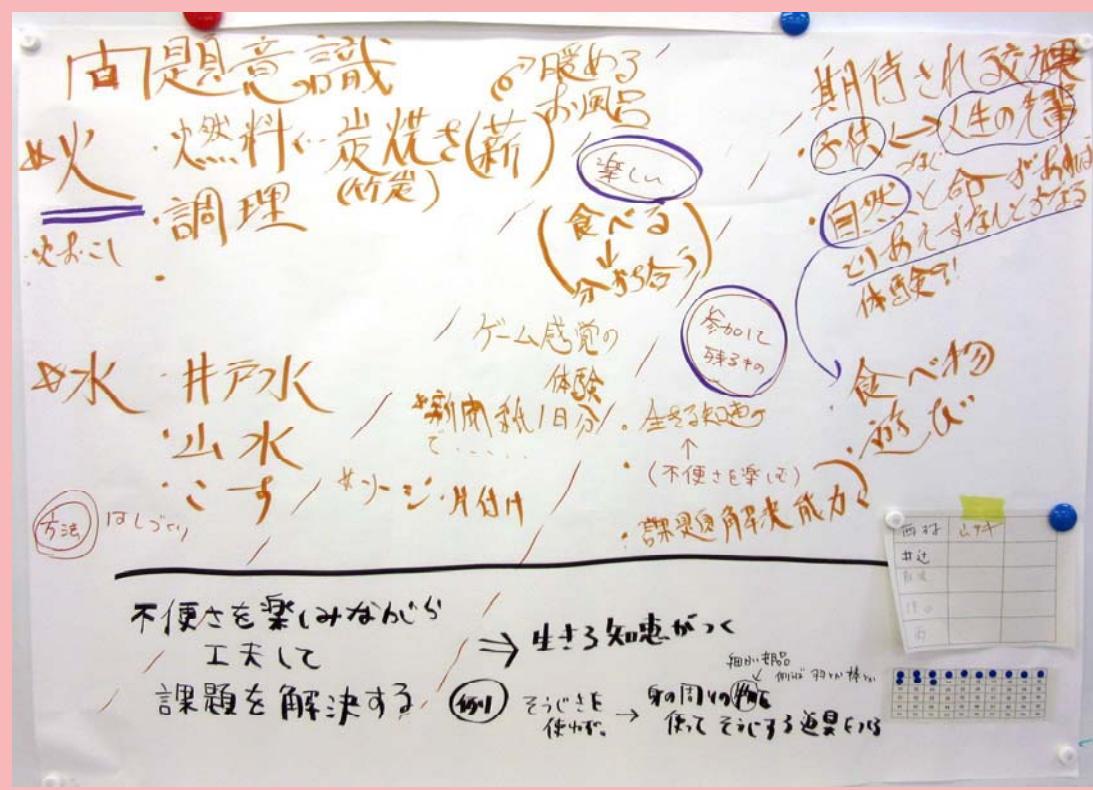
心の環境教育

楽しい体験 成功体験	リスク管理 よいことは統計がない 自然教室の日数	文句を言う前に 少しは、ましな 生き方をしてみせる
変態！と云うたい学生 背景とお生活環境	歌いたいのは誰か とをたかる。 (知らない。)	豊かな自然と 温かい人間関係が 豊かな心を育てる 無関心や シニシズム (冷笑主義) への挑戦
ゴミの分別ができない高校生 やられた分別から先生に 教わったことが本物でない ふりをする。	歌いたいのは誰か たぶん大人の歌 と思える環境 小さなとの つが重ね	人の心に花を咲けよう 人と子どもが同じ見線で
大きな外で外を学ぶ環境教育	ふりをする。	心は花

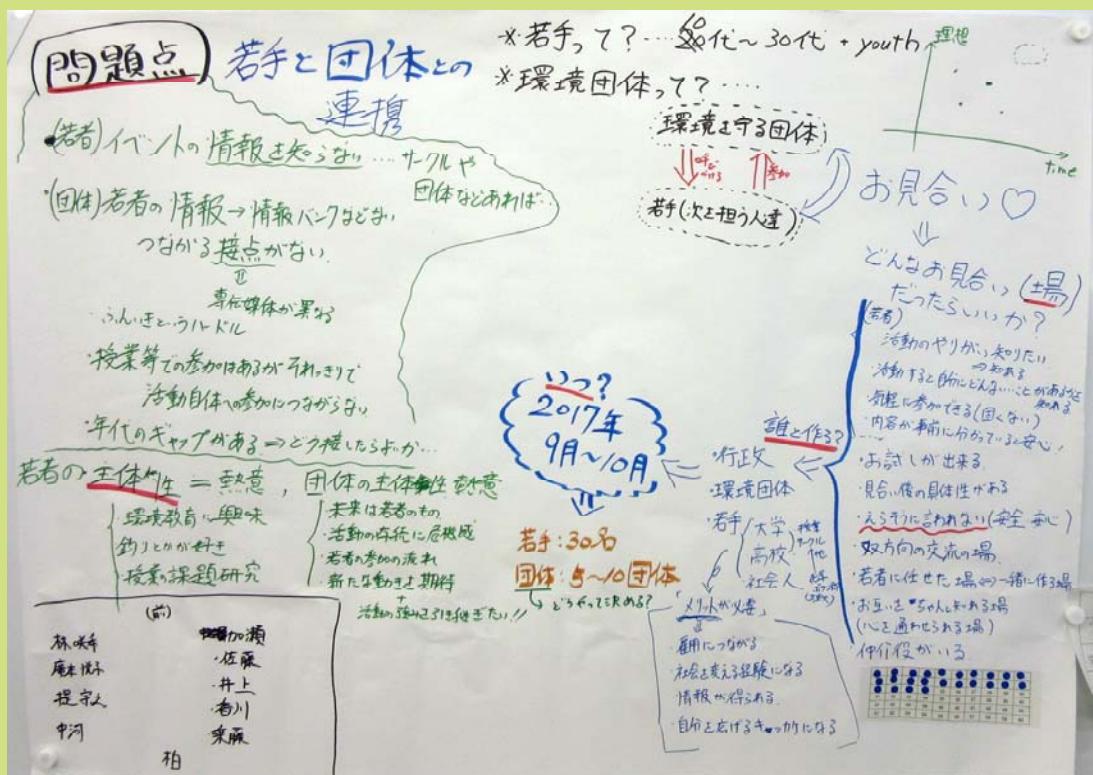
10) 障がいのある親子・障がいのない親子が自然の中で楽しめる交流会



11) 出前講座の新たなプログラム作り：「昔の暮らしの知恵と工夫」



12) 環境分野の若手と環境団体が縦の連携を作るためのイベント企画
『若手版 おかやま環境教育ミーティング(仮)の開催』





16：30 全体ふりかえり・わかちあい

- 締めくくりに今日1日の感想を協働ミーティンググループ内で一言ずつキーワードを用いてふりかえり。
- 代表して4名の方に発表してもらった。

「初めて」
このような企画に参加したのも、いろんな大人と話すのも人生で初めて。これから的人生に活かしたい。

「溶かす」
地域の方等との関わり合いで敵対視してしまうことがあるが、「溶かす」という新しい形はとても素晴らしい考え方だ。本企画への意見としては、いろんな団体が参加しているがすべて知ることができなかったので、各団体のスピーチ等があればうれしい。

「協働→力力力+人が動く」
今回のミーティングは「点」なので、「面」にするための集まりが必要ではないか。

「日本文化（無常）」
アジェンダ21は壮大な規模で作られているので、ローカルアジェンダは日本文化、しかもすべてのことが変化していくということをベースに考え直すとすごいものが発見できるのではないか。

- アンケートを実施。

16：50 閉会挨拶

岡山県環境文化部 新エネルギー・温暖化対策室 室長 片山 圭子 氏

- 今年のテーマは一步進めて実際の行動につながる芽が芽生えてほしいという思いを込めたものだが、予想以上の芽が芽生えたのではないか。
- 今日の取り組みを皆様それぞれの場所にお持ち帰りいただき、今回のつながりで得られたことをひとつでも次へ活かしてほしい。





アンケート結果

参加者のみなさんについて

- ・参加者の年代は、10代～70代までの幅広い方々に参加いただき、20代、40代（20%）の参加者が最も多い、また10代（15%）と50代（16%）の参加者も比較的多かった（図1）。
- ・参加者の所属については、学生（23%、主に高校生）、NPO（20%）や学校（13%）の方々を中心に企業や行政職員等の多様な方々に参加いただいた（図2）。
- ・参加したきっかけについて、メール（29%）が最も多く、チラシ（22%）や紹介（22%）を見て参加された方が多かった（図3）。

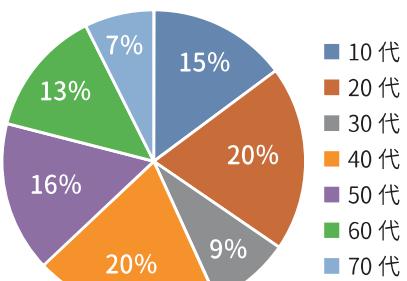


図1 参加者の年代

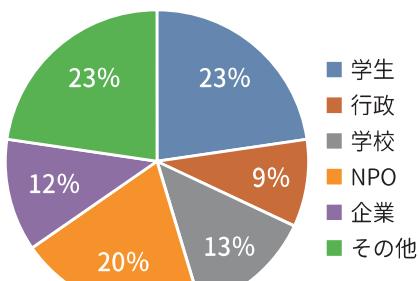
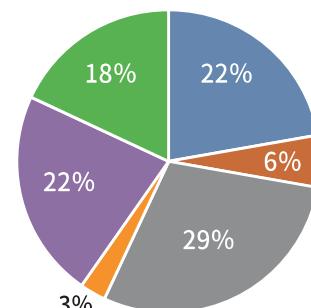


図2 参加者の所属



Q. 第4回おかやま環境教育ミーティングの内容は、あなたの目的や期待を100点とした場合、何点でしたか？

- ・参加者の大部分の方から80点以上の評価をいただいた（平均 86.2点、図4）。
- ・多様な主体、幅広い世代の参加者同士で交流、意見交換できることやつながりができること、基調講演の内容や協働ミーティングについて高く評価する意見が多くあった。
- ・一方で、「（全体的に）時間が短い」や「学校関係者の参加が少ない」ことなどについての意見もあった。
- ・満足度について、「基調講演」と「協働ミーティング」では63%の方が「満足」と回答し、最も満足度が高くなった。続いて「知り合う時間」（45%）、「ブース展示」（43%）の順に満足度が高くなかった（図5～8）。
- ・昨年と比べて参加者の顔ぶれに大きな変化が無かつたため、「知り合う時間」と「ブース出展」に新しさが無く、そのことが評価に現れたと思われる。

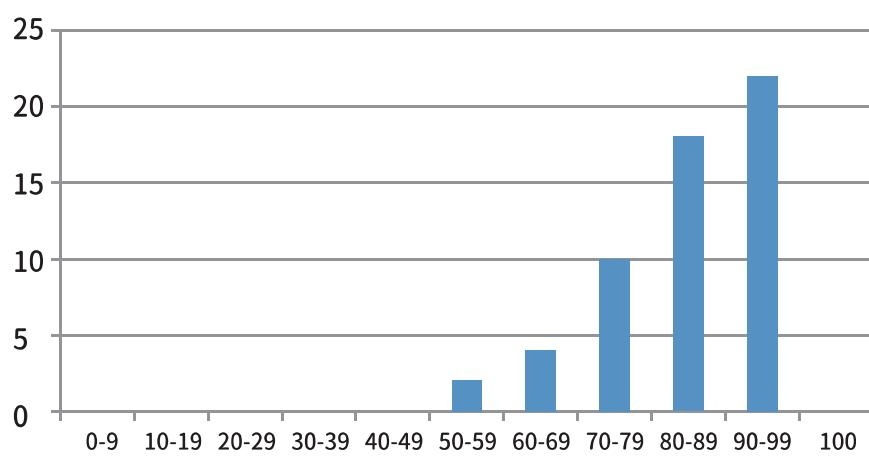


図4 点数の頻度分布 平均点 86.2点



【その理由】(一部抜粋)

- ・様々な方と知り合うきっかけになった。小学校でできる取り組みをもっと知りたかった。
- ・午前の講演がすばらしかった。目からウロコ。
- ・いろんな年代の方とはなしができとてもいい経験になりましたよかったです。
- ・環境についてのそれぞれの団体の取り組みを知ることができた。
- 初めての参加だったがミーティングに入ることが自然に出来たのでよかったです。
- ・みなさんが協力的で意見交換などもスムーズ、気持ちよく進められました。
- ・様々な方と出会い、異なる視点で意見交換ができ、貴重な時間だった。
- ・なごやかなふんいき！！
- ・提案について色々な意見アドバイスが頂きました。新たな出逢い、今後のつながり、これまでのつながりの進化がありました。
- ・自分と異なる考え方、若い人の考え方を聞くことができた。
- ・もう少し積極的に発信をすればよかったです。
- ・本当にたくさんの意見が聞けておもしろい、楽しいと純粋に思いました。
- ・楽しく過ごせた。新しいことを知った！
- ・タイトなスケジュールでしたが、十分な内容がもうらされており充実していました。
- ・環境学習をする上で様々な意見が聞けてとても役立ったのですが、もう少し自分の意見が言えたのかなと思いました。
- ・講演内容にすごく興味が持て、参考になった。
- ・学びと気づき やる気をもらいました。
- ・とてもシゲキ的な時間になりました。
- ・サークルの活動紹介、仲間づくりなど目的が達成できました。また講演会もとてもためになりました。

【各セッションについて（満足度）】

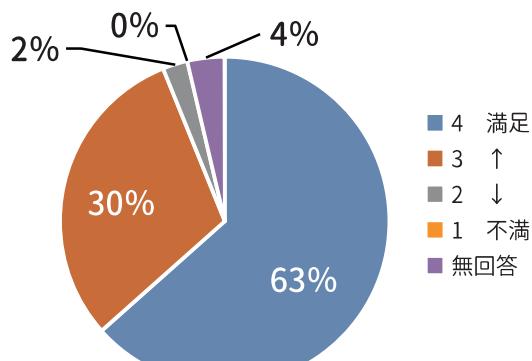


図5 基調講演

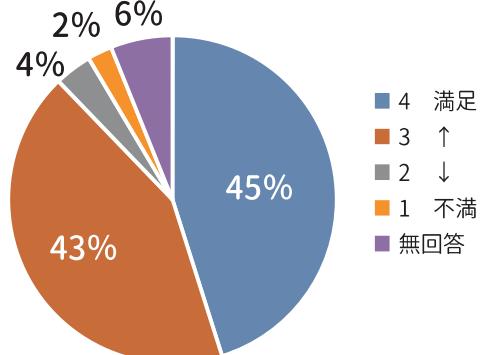


図6 知り合う時間

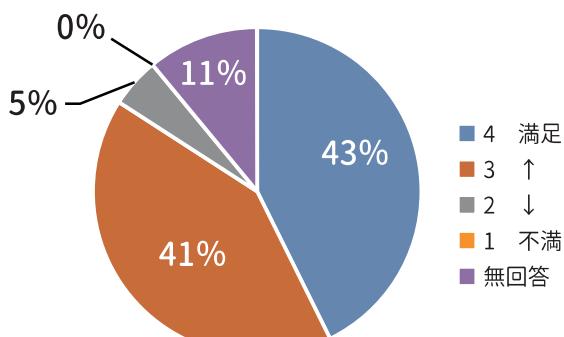


図7 ブース展示

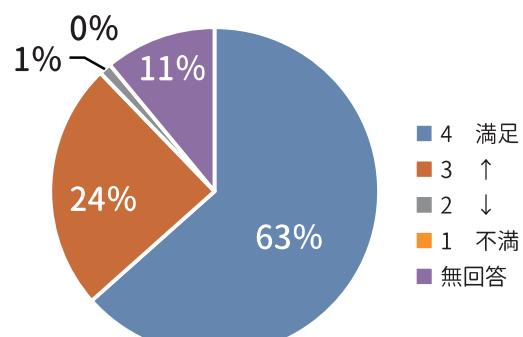


図8 協働ミーティング



Q. 本日の参加の目的を教えてください。

参加目的には、「つながり」「仲間づくり」など協働のためのネットワークづくりを目的とする方が多く、「情報交換」「新たな気づき」など広がるための目的をもって参加されている参加者や「基調講演」など個別の目的をもって参加されている参加者も比較的多かった。

【コメント一部抜粋】

- ・いろんな方の話を聞く。
- ・想いを共鳴する仲間づくり
- ・伝え方を学びたかった。いろいろな面で活躍されている方のお話を伺い、ヒントを得る。
- ・情報や意見をもらう。
- ・つながり、広がりを求めて
- ・環境活動を行う団体について情報収集。
- ・新たな学びとつながり
- ・新たな出逢いとつながり→共通の地域で一緒に活動出来る仲間作りの「きっかけ作り」
- ・多くの人と知り合うことが目的でした。・環境について知りたいから。
- ・人と共に考えることができた。
- ・色々な視点が知りたかった。
- ・新しい友を見つける。
- ・岡山県の環境教育の現状把握、情報収集、自身の活動のヒント。
- ・多方面のことを聞きたかったから。
- ・ネットワークを広げることと、他の方の活動や意見を聞くこと。
- ・沢山のグループの活動状況を知ること。
- ・環境学習をやっていく上で今まで以上のものをするため何かアイデアがあればと思い参加しました。
- ・ネットワークづくり
- ・他団体とのつながりづくり
- ・基調講演を聞くこと、いろんな団体の方と知り合うこと

Q. またその目的は達成されましたか？

参加者の 24%が「予想以上」、45%が「達成した」、26%が「少し達成した」と回答した（図 9）。

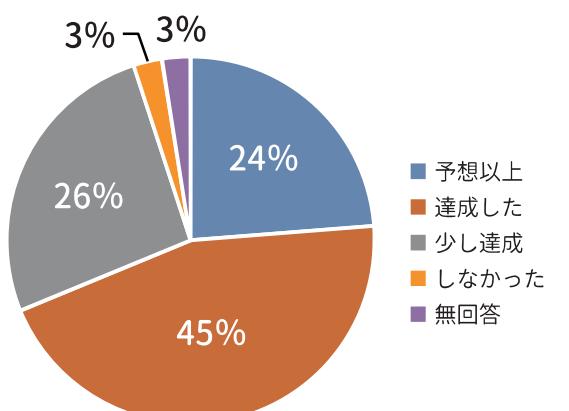


図 9 目的は達成されましたか？



【コメント一部抜粋】

- ・多くの意見をもらえて参考になりました。
- ・珍しく自分から多く話すことができた。
- ・半数以上の方々の知り合い、新たな知り合いが出来た。
- ・提案をまとめることが出来て良かった。実施に向けてガンバかな？
- ・自校の説明もできましたし、様々な経験ができたように感じます。
- ・このような会は意味があります。真剣な意見がありました。
- ・かなり充実したものとなってよかったです。
- ・環境にも様々な視点があるのだと感じました。
- ・活発な議論の場に参加できました。
- ・今一度、日本文化を見直し、学び直すことの必要を感じています。
- ・応援したい団体の方と出会えました。
- ・若い学生さんの頑張りが嬉しい。
- ・青山益夫さん（④）の話がすばらしかった。すごく勉強になった。多くの人に知ってもらいたいと思った。
- ・皆さんの取り組みメニューが豊富ですばらしい！
- ・情報量がとても多かったが、それ以上に楽しいと思えた。
- ・多くの意見、考え方を聞くことが知識を深めることができたから。
- ・知り合う時間やブース展示、協働ミーティングで様々な団体のお話を聞くことができたから。
- ・色々な人と話せて自分が知らない環境の事を学べてそれが世界にまでつながっていることを知れたからです。
- ・やる気出ました！
- ・十分に人とのつながりを持てました。
- ・NPO サイドの視点で考えることはあまりなかったので講演も含め良い刺激となった。
- ・目的が達成され、つながるよさを実感できた。知り合いにも会え、モチベーションが上がった。

Q. 今回のミーティングで考えたこと、発見したこと、参考になったことは？

やってみたいことはどんなことですか？また、やってみたいことなどあればお書きください。

「協働」や「連携」など、具体的なアクションに言及するコメントが比較的多く見られた。

また、10代と20代の参加者が多かったことからも「高校生」や「若者」に関する意見も多くあった。

【一部抜粋】

- ・高校（専門学校）の参加きたいする。
- ・いろんなところと連携してやってみたいなと思いました。
- ・環境に取り組む人はいい人ばかり。自分の視野がどんどん拡大します。
　もっと同じ視点（環境目線）の人とつながって拡大していきたいです。
- ・身近なものでも積極的にボランティアなどに取り組もうと思った。
- ・アサザプロジェクトの取り組みは今後勉強して参考にさせていただきたい。
- ・中間支援組織で基本後方支援ですが、自ら活動にかかわりたいと思うきっかけになりました。
- ・「めばえる」自分のこととして考えたい。
- ・協働のためにまた集まりたい。
- ・広げる関係作り
- ・実行あるのみ。もちろんP・D・Cでのことですが。
- ・協働のあり方、支店（アサザ基金）小さな力をプラスすれば人が動く。点から線へ、それから面へ。
- ・環境のプレイヤーの養成やデータベースの必要性を感じた。
- ・基調講演の中味をもっと知りたいと思った。
- ・今、環境に対するイベントをあまりよく知らなかつたし、若い人も少ないということだったので
　もっとよく知ってもらえるような対策を考えたいと思いました。
- ・学生さんの参加が多く、また今後の行事で参考になることが多かった。収穫大。



- ・子どもたちに知ってほしい、考えてほしいことがたくさんあって学校で取り組みたいと思った。
- ・基調講演で聴いた内容を今後の自分の活動に活かせるよう考えていきたい。
- ・今日の協働ミーティングをヒントに地元で何かやりたいと思いました。
- ・グループワークの進行が面白く、すばらしかったです。参考にしたいです。
- ・常に positive であり、新しい価値を見付けていきたい。又、今あるものもしっかり見ていきたい。
- ・子どもの力をひきだすプログラムや声掛けのしかた。企業の方との協働。
- ・つながり、連携、協調、協力
- ・若い人の考えていることを聞くことができた。若い人とのつながり。
- ・問い合わせることの大切さ、共有が大事！
- ・私たち若者ももっと環境について興味を持つことが大事だと思いました。
- また、子どもの頃からの教育が大切だということが分かりました。

Q. 今回のミーティングで出会った / つながった人数は何人ですか？

6～10人の方々とつながった人が最も多く、平均で13.6人の方々とつながったと回答があった（図10）。また、そのつながった方々との協働のきっかけについて、51%の方が「はい」と回答した（図11）。

【具体的な協働（一部抜粋）】

- ・協働ミーティングで多くの人と話せ意見共有ができました。
- ・環境についてもっとよく調べていろんな人ともっと交流
- ・活動へのヒントの提供
- ・自分の町をもっと見つめ直す。
- ・環境学習でのコラボを
- ・若手版おかやま環境ミーティングに参加
- ・矢掛プロジェクトのお手伝い
- ・食と農というところでお力をかりたいと思っています。

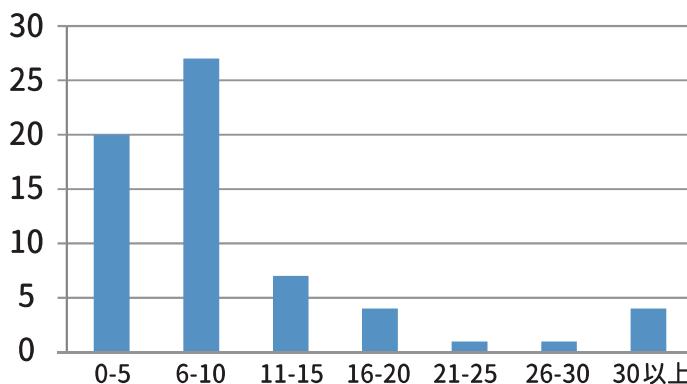


図10 出会った / つながった人数は？ 平均 13.6人

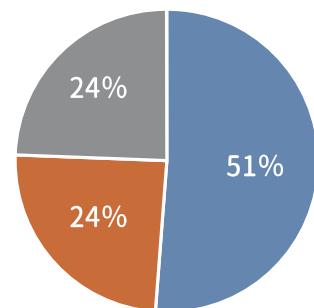


図11 その方々と協働のきっかけはできましたか？



次回の開催に向けて

Q. 開催時期、曜日、時間について、どのくらいが参加しやすいですか？

- ・開催時期は「8月」が最も多かった（図12）。
- ・開催曜日は「平日」が58%で最も多く、「土曜日」30%、「日曜日」12%となった（図13）。
- ・開催時間は「1日」が、43%で最も多く、「半日」33%、「1泊2日」が13%となった（図14）。

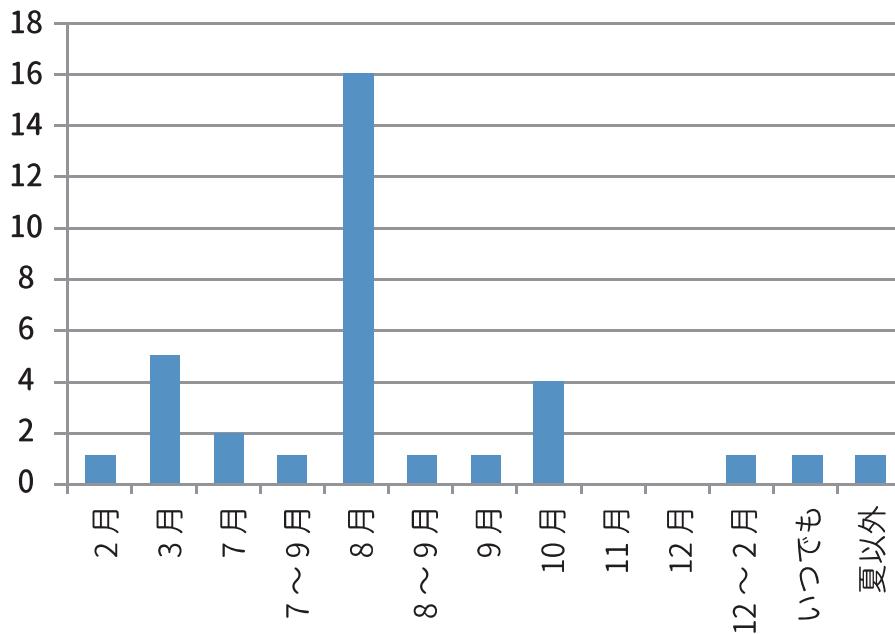


図12 開催時期についてどのくらいが参加しやすいですか？

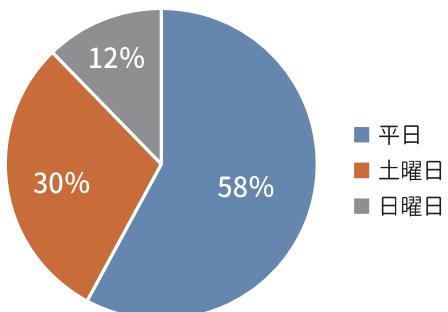


図13 開催曜日についてどのくらいが参加しやすいですか？

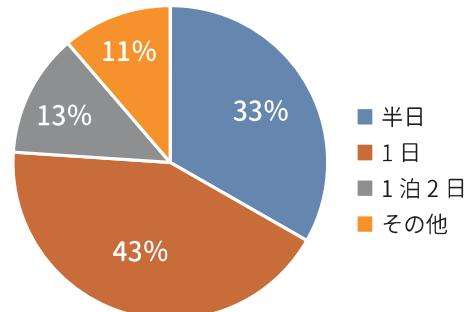


図14 開催時間（期間）について、どのくらいが参加しやすいですか？



Q. 次回開催の内容について、どんな内容（もしくはテーマ） また、方針での開催を希望されますか？

- ・内容や方針については、「誰でも気軽に参加できる内容」が43%と最も多く、「協働実現に向けてさらに深めた内容」27%、「今まま」26%となった（図15）。
- ・進め方については、「講義＋ワークショップ」が47%で最も多く、「ブース展示」30%、「ワークショップ」13%、「講義」6%の順となった（図16）。

【テーマについて（一部抜粋）】

- ・具体的なプログラム
- ・協働の仕組み
- ・ワーキングネット作り
- ・学習カリキュラム、プログラム作成
- ・交流会、活動報告会
- ・ネットワークづくり、協働の仕組み、プログラム作成
- ・ビジョンづくり
- ・若手とのつながり

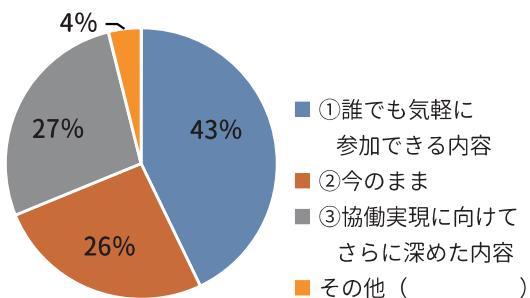


図15 どんな内容や方針を希望されますか？

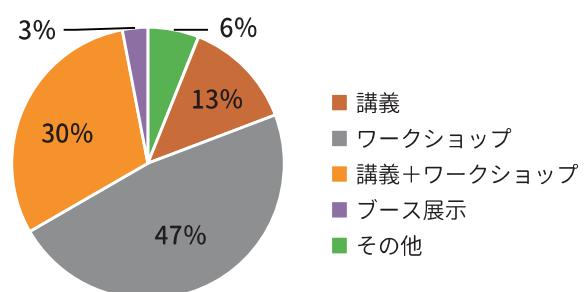


図16 どんな進め方を希望されますか？

Q. 本ミーティングを含め、「かんきょうひろば」に対するご意見やご要望をお聞かせください。 また、学校関係者の方は、本ミーティングに学校関係者が参加しやすくするには、 どのような工夫が必要か、ご意見をお願いいたします。

【一部抜粋】

- ・すごく慣れてきた感じがしました。そろそろ新しい視点も必要かも？
- ・アスエコを通じてスムーズに情報を流してください。
- ・教育センターの研修カリキュラムに本ミーティングを入れてもらうと参加しやすい。
- ・このままでいい。
- ・今回初めての参加でした。小・中学生向けのイベントがあれば生徒も興味のある子はいるので連れて行きたいと思いました。
- ・時間的に厳しいかもしれません、ブース展示の時間を長くしていただくと良かったです。
学校にパンフレットなどを配るともっと多くの人々に知ってもらえて、参加しやすくなると思います。
- ・私は学生なのでその立場から言うと、参加するためには情報がないと参加できないので情報配信をしてほしいと思いました。
- ・学校での具体的な実践例の発表があるほうが良い。（展示や事例の紹介パンフ等でもよい）
- ・ブース出展者を出展していると知る時間がないので、紹介してもらえるとうれしいです。
- ・少し話し合う時間を増やしてもよいかと。
- ・メールマガジンという形で情報を出してみてはどうか。
- ・話しやすい場で良かったです。



開催までのスケジュール & 実施プロセス

■実行委員会等開催スケジュール

1月 28 日 (木) 17：30-19：00

実行委員会キックオフ（企画概要の検討）

4月 25 日 (月) 17：30-19：30

第 1 回実行委員会（委員長の選出、企画概要の確認、広報活動の検討）

5月 19 日 (木) 17：00-19：00

第 2 回実行委員会（テーマや構成の決定、広報スケジュールの確認）

5月下旬 県内の学校へ「開催の事前案内」を送付

6月 15 日 広報・参加者募集開始

6月 28 日 (水) 17：00-19：00

第 3 回実行委員会（進捗状況の確認、当日のスケジュール・役割分担の確認）

8月 3 日 (火) 17：00-19：00

第 4 回実行委員会（申込状況の報告、その他詳細事項について最終確認）

8月 17 日 (水) 10：00-17：00

第 4 回岡山県環境教育ミーティングの開催

9月 5 日 (月) 17：00-19：00

第 5 回実行委員会（ミーティングのふりかえり、次回の開催に向けて）

■実行委員会メンバー

環境団体 2 名

NPO 2 名

民間企業 1 名

公益財団 1 名

行政 2 名（岡山県新エネルギー・温暖化対策室 1 名、岡山市 ESD 推進課 1 名）

学校関係 6 名（小学校教員 1 名、中学校教員 2 名、高校教員 2 名、教育委員会 1 名）

事務局 3 名（環境学習センター「アスエコ」3 名）

